

お元気ですか

急な下痢（ノロウイルス）

由岐病院内科 本田 壮一

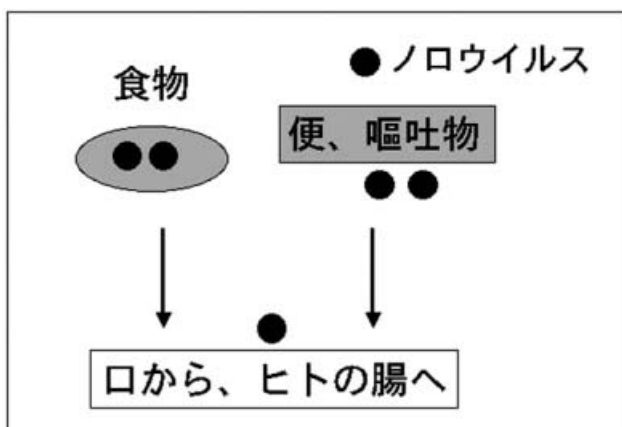
1968年、アメリカ合衆国のノーウォーク（Norwalk）市（オハイオ州）で、小学生に集団の嘔吐下痢症が発生しました。その原因ウイルスを、地名の最初のアルファベットより、「Noro（ノロ）ウイルス」と呼んでいます。近年、合衆国だけでなく、日本でも猛威を振っています。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、主に冬に発生します。特に幼児や高齢者の施設・病院・団体旅行などで発生した場合は、集団感染につながる場合がありますので注意が必要です。

ノロウイルスは、河川や海に生息するカキやサリなどの二枚貝の中に蓄積されています。そして、冬場に食べることの多い「生ガキ」による食中毒が最も多い原因です。

感染経路は、ウイルスが口から入ることで、ノロウイルスに汚染された食物を十分加熱せずに食べた場合や、患者さんの便や嘔吐物からの二次感染による場合があります（図）。食中毒と感染症の2つの性質があるウイルスです。ウイルスが体に入ると、24から48時間で発病します。主な症状は、吐き気・嘔吐・下痢・腹痛などで、軽い発熱がみられることもあります。体力のある人は、症状が半日ほど続いて回復しますが、乳幼児や高

図：ノロウイルス感染の経路



【著者略歴】

本田 壮一（ほんだ そういち）

由岐病院院長・阿部診療所所長（兼任）

1958年7月、美波町田井の生まれ。富岡西高、徳島大学医学部卒業。徳島大学病院内科、関連病院勤務後、2005年4月より、現職。

齢者は脱水により重症化したり、嘔吐物によって窒息することもあり、早めに病院への受診が必要です。

治療では、下痢による脱水の影響を防ぐことが重要で、水分補給が中心となります。軽症ならスポーツ飲料などを飲むだけでよいのですが、重症ならば点滴（輸液）が必要となります。止痢薬（下痢止め）は、体内のウイルスの排出を遅らせる可能性があるため、使用は最小限にします。

予防は食物の加熱と手洗いです。食物の中心部の温度が85℃、1分以上でウイルスは死滅するので、十分に加熱すれば安全です。大切なことはトイレの



後、調理をする際、食事の前には、よく手を洗うことです。ノロウイルスには消毒用アルコールは効果がなく、まな板・包丁などの調理器具は、家庭用の塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）での消毒が有効です。容器の注意書きをよく読み、使用しましょう。

施設などで、二次感染を防止するためには、嘔吐物や、下痢便の処理はビニール手袋、マスクなどを用い、汚れた床などの消毒を十分にすることが必要です。手洗いを励行して、ノロウイルスを予防し、この冬を丈夫なお腹で乗りきりましょう。

ご意見・ご感想を歓迎します。

〈由岐病院 FAX：0884（78）0533〉